

平成27年度第2回相生市総合教育会議会議録

日 時	平成28年1月25日（月）13時00分から14時30分
会 場	市役所1号館 3階 議員控室
出席者	谷口 芳紀 市長 武本 尚 教育委員長 山本 綾子 教育委員長職務代行 栗原 英子 教育委員 小西 毅 教育委員 浅井 昌平 教育長
説明員	越智 俊之 企画総務部長 玉田 直人 教育次長（管理担当） 能本 英樹 教育次長（指導担当） 西角 隆行 参事（生涯学習担当）兼生涯学習課長 宮崎 義正 管理課長兼生涯学習課主幹 坂本 浩宣 学校教育課長 小西 まこと 体育振興課長 横山 和彦 人権教育推進室長 三浦 貴史 管理課副主幹（書記）
傍聴者	1名

1 開会

2 市長挨拶

今回からは、新しい教育委員として小西委員にもご出席を賜っている。保護者あるいは、経営者の視点で相生市の教育行政の発展・充実にご協力賜ればと思っている。

相生市では、今年4月から、地方創生の取り組みとして「相生市もっと活力上昇計画」をスタートさせる。その地方創生の特徴的な柱として、「グローバル化に対応した他市には無い英語教育の充実」、「文化会館などを中心とする臨海部の賑わいづくり」、「相生の魅力を発信するシティー・プロモーション」の3つを掲げて進めてまいりたいと考えている。

また、この総合教育会議は、今後の相生の教育についての大きな方向性を決定する会議であり、非常に重要な場である。各委員の忌憚りの無いご意見を頂戴しながら、ざっくばらんに意見交換や調整をさせていただきたいと考えている。

3 会議の目的について

管理課長

昨年4月より地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正により、各自治体に総合教育会議の設置が義務付けられた。この会議は市長と教育委員会の協議調整の場という位置づけとなっており、会議での協議事項としては、①大綱の策定、②教育に関する諸条件整備や重要施策の検討、③児童生徒の生命や身体に被害が及ぶような緊急に講ずべき措置についての協議を行うこととなっている。

相生市での総合教育会議の開催は、通常年2回を予定しており、今回が今年度の2回目となる。

谷口市長

緊急の場合があった時は臨時でも開催できるのか。

管理課長

児童生徒の生命や身体に被害が及ぶような場合には、緊急に開くことが出来る。

栗原委員

会議は年に2回であるが、開催の時期は。

管理課長

年度初めと秋頃の開催を予定している。今回は、新規事業の関係と委員の交代等もあったためこの時期で設定した。

4 報告事項

(1) 大綱の策定について

ア 相生市教育振興基本計画改定（案）について

管理課長

総合教育会議で協議いただく事項として、教育に関する大綱の策定については、法律で位置付けられている。教育振興基本計画を策定している自治体においては、総合教育会議で教育振興基本計画を大綱として置きかえると判断した場合には、大綱を策定する必要が無いと文部科学省の通知にある。

第1回の総合教育会議において、「現在の相生市の教育は、相生市教育振興基本計画に基づき進めており、現時点において極めて良い形で進んでいるものと考えているので、相生市教育振興基本計画を大綱に代える」ということで、決定をいただいた。今年度、その大綱として置きかえた教育振興基本計画の改定作業を行っているので、改定の計画（案）の報告をさせていただく。

意見等あれば、改定（案）に反映し、計画を策定する。なお、計画の策定については、3月の定例教育委員会にて議決をいただき決定される見込みとなっている。その後、次回の本会議において、改めて改定した大綱に位置付けた振興計画を協議いただくこととなる。

改正の概要は、

振興計画が策定後5年を経過するため、社会情勢の変化や本市の教育を取り巻く環境の変化を踏まえ課題の再認識を行うとともに、今後5年間でより実効性のあるものとするため見直しを行うものである。見直しにあたっては、学校教育分野については、学校教育審議会に、社会教育分野については、社会教育委員会に諮問し答申をいただいた。両審議会ともに、基本目標、基本方針など大きな方向性については維持することとし、これまでの成果と課題、施策ごとの今後の取り組み内容について、現状を踏まえた見直しを行うという内容であった。このことを踏まえ、相生市教育振興基本計画（案）をこの度策定した。

今後の流れは、この計画案に本日いただいた意見や、パブリックコメントの結果を反映し、教育振興基本計画（案）を2月開会の市議会の総務文教常任委員会に報告させていただき、3月の定例教育委員会に議案として提出し議決をいただいた後、平成28年4月よりその計画を推進していくという流れになっている。

谷口市長

本市の大綱である改定後の相生市教育振興基本計画（案）は学校教育審議会や社会教育委員会に諮問し審議を経て策定されたもので、根本的な変更も無く、現状を踏まえた計画案なので、この改定の内容に異論はない。

武本委員長

現在の教育振興基本計画を基本とし、現状を踏まえた見直しを今回行ったものであるため、市長の意見に賛同する。

各委員

異議なしの声

教育次長（管）

教育振興基本計画改定（案）に了承いただいたということで、今後は、策定のための事務手続きを進めさせていただく。

5 協議事項

（1）相生市の教育に関する重点施策について

ア 平成28年度の重点施策について

管理課長

平成28年度の重点施策については、現・相生市教育振興基本計画、平成28年度から進める相生市教育振興基本計画の改定案に記載した内容に基づき、推進していく重点施策を提出させていただいた。

今回、協議をお願いする重点施策は6つあり、第1回目の総合教育会議において、「グローバル化する社会に対応できる子どもたちを育てるため、相生の教育の特徴はこれだというものを作ってもらいたい」という意見を踏まえ、「ワンピース・イングリッシュ・AIOI」を目玉事業とし、その他5つの各課室から以下の重点施策を掲げて取り組む。

各課長より以下の事業概要説明

- 1 ワンピース・イングリッシュ・AIOI（学校教育課・生涯学習課）
- 2 小・中学校学習環境改善事業（管理課）
- 3 総意ある学校園づくり事業（学校教育課）
- 4 文化会館管理運営事業（生涯学習課）
- 5 ジュニア世代に注目したスポーツ活動の推進（体育振興課）
- 6 ケータイ・スマホ教室（人権教育推進室）

谷口市長

ぐんぐん学力アップのフォローアップというのは、英語だけのフォローアップになるのか。

学校教育課長

国語や数学についても同様にフォローアップをしていきたいと考えている。

谷口市長

文化会館で、子どもたちに有益な映画を見せてあげたらよいと思う。

参事（生涯学習担当）

様々な年代に合わせた形のものをこれから考えて行きたいと思う。

山本委員

市長はいつも、まちづくりはひとづくりということを言われ、教育に対して重点施策として取り組んでいただいていることは大変ありがたいと思う。教育というのはすぐに効果が表れるというものでもなく、長い目で目標に向かって育てていくことをやっていただきたいと思う。私たちができることは何かというと、教育の環境を整える、人的にも物的にも整えていくことだと学校にいた時にも思っていた。そういうなかで人づくりをやっていっていただけたらと思う。

武本委員長

重点施策については、非常に良い施策が打ち出されていると思っている。教育の目標というのは立てやすいが、成果を何で見るかと考えると、一番分かり易いのは学力。コミュニケーション能力も非常に大事であるが、学力アップというのは、テストの点数が上がるということが、成果として分かり易い。

相生市に住んだら英語の学力が上がるんだと思えば、定住してみたいという気持ちが強くなるのではと思う。

浅井教育長

実際に目標を数値で表すことによって、市民の方の支持や理解に繋がっていくと考えている。しかし、点数で表せる部分は、学校活動の一側面であるということも、気を付けておかなければならない。子どもたちの生きる力というのは、知・徳・体のバランスというふうに言われており、生きる力という全体である程度の評価をしなければならぬと思われる。

私個人的には、子どもたちの教育の根本は規範意識と人権感覚であると考えている。これだけはしっかりと子どもたちに付けてやらなければならない、その上で学力というものを付けていかなければならないと考えている。

武本委員長

生きる力というのは、色々な捉え方があると思うが、私の個人的なことであるが、自分の今までを振り返って、生きる力は何かと言えば、若いときの打ち込んだ厳しい体験というのが生きる力に結びつくのではないかなと思っている。一つは学力で鍛える、もう一つはスポーツで鍛える。この二つが私は生きる力だと思っている。

今年、成人式で市長が言われたが、辛いことがあっても乗り越えていかなければならない。それが生きる力の基本だと思う。その動機づけとしての目標としては、点数だと思う。

浅井教育長

例えば子どもたちのテストの結果が上がった。それは子どもたちの評価と同時に先生の評価でもあり、我々教育行政に携わっている者の行政評価にもなるだろうと思う。逆に成果がでなかったら、子どもたちが悪いのではなく、先生や我々教育行政に携わる者が悪いという考え方も当然にあると思っている。

小西委員

私は経営者でもあるので、点数であったり、結果というのをすごく求める。もう一方で山本委員が言われたように、長きに渡ってという意味では、やはりコミュニケーションというのは大事で、プロセスの中で、失敗したけれどこれだけ成長したなというのはあると思う。最近の若い子は、コミュニケーションが足りていないのではないかと、よく言われるが、先生を含め、大人、周りの人間が聞こうとしてあげる環境を整えるということも大事なのではないかなと思っている。

新しいなぎさホールが出来て、色々な人を巻き込んで、ここへ来たら聞いてくれるとか、ここへ来たら何かがあるとかいうようなそんな場所になってもらえたらいいなと思う。

各委員

平成28年度の重点施策について、了承の声

教育次長（管）

ご意見等を踏まえ、平成28年度の事業を進めさせていただきたいと考えている。

5 協議事項

（1）相生市の教育に関する重点施策について

イ その他

教育次長（管）

総合教育会議は市長と教育委員会が、教育に関する諸条件整備や重要施策について協議や意見調整を行っていただく会議となっている。今後の教育について、教育委員長の相生市の教育に関する所感をお聞かせいただき、続いて市長の教育に関する所感をお聞かせいただき、その後、市長と各委員による自由意見交換を行っていただきたいと考えている。

武本委員長

相生市教育委員会独自の施策は何かなと常に考えており、他の市町村を見ていると、相生市はかなり早い時期から独自の教育施策というものが分かり易く打ち出されていた地方自治体ではないかという気持ちをもっている。

これは、市長が教育委員会制度が変わる前から教育に対して行政全般の中でもかなりのウエイトで力を入れてこられ、それが反映されて相生市独自の教育と施策というものを出されたと思っている。

去年あたりから、国が地方創生ということをしきりに言い出して、地方でオリジナルの創造性のある施策をするよう言い出したような感じを受けるが、各自治体が教育に限らず競い合うという雰囲気がでてきたということで、国の地方創生は、経済面の活性化や景気を押し上げるとか、若者の働く場を作るとか、そういうことも含めて、教育も地方創生の大きな柱ということは言っているが、地方自治体が国の言う地方創生に具体的に取り組める分野といえば、私は教育ではないかと思う。相生市の独自の教育の施策というのは、着実に成果があるし、他の市町にないものの成果をあげられる、そういう分野だというように思っている。地方創生の中で相生市というものは教育において恐らく兵庫県でもどこにも負けないような施策を打ち出し、成果をあげられるという土壌がすでに何年も前からあるような気がしている。そういう点ですます今年から新しい施策に取り組んで教育の地方創生のシンボリックな自治体として

注目される、そういうふうな将来像を期待している。我々も真剣に取り組まないといけないし市長以下の職員全員がその方向を向いて頑張っていく、そういう時期が来たと思っている。

谷口市長

地方創生の総合戦略というものを相生市もこの3月までに策定するが、地方創生の新規の中の予算の約半分は教育予算に割いている。

今回成立しました補正予算の中に地方創生の加速化交付金1000億円、平成28年度の本予算の地方創生の新型交付金が1000億円で併せて2000億円を国の方が用意している。

相生市の地方創生の柱は教育と子育て支援である。これが2000億円の国の交付金に合致するかどうかというのが、なかなか難しいのではないかという気はしている。

国は地方主権と言いながら、国の要件に満たなければもらえないという姿勢である。そのため、相生市の教育と子育て支援が国の交付金の要件にマッチするかを心配している。しかし、相生市としては、教育と子育て支援というところにきっちり柱において、これからもやらせていただきたらと思っている。

常々申しているが、「まちづくりは人づくり」と考え、平成28年度から実施する地域創生総合戦略においても、これまでの子育て、教育支援、定住促進の取り組みに加え、教育施策の一層の充実を柱とし、学校教育と社会教育の推進を図ってまいりたいと考えている。

そのなかで、相生市の今後の教育について、私の考えを2点申し上げる。

1点目は、第1回の総合教育会議においても協議された、グローバル化について、平成28年度から取り組むこととしている「ワンピース・イングリッシュ・AIOI」。国際社会でのコミュニケーションに必要な英語力に着目し、幼児期から小・中学校まで、発達段階に応じた英語教育を充実し、英語によるコミュニケーション能力を養うことに取り組みたいと考えている。特に、相生市独自の取り組みとして、幼児期における英語活動の充実を図ることにより、幼児期から中学校卒業まで系統的で繋がりのある英語教育を推進し、また、イングリッシュ・キャンプなどの英語活動の充実により子どもたちのコミュニケーション能力の向上を図ることと、教職員の指導力向上、幼・小・中の教育体系をマネジメントする体制を構築していただくようお願いする。

2点目は、相生市文化会館について。昨年末に建設工事が完了し、今年4月に開館を迎える。平成28年度の運営は初年度であり、今後の方向性を左右する極めて重要な1年となる。文化会館を最大限に活用し、市の活力向上に繋げていきたいと考えている。

そのようななかで、市民の文化芸術の拠点としては勿論、市民の交流や賑わいの場所として、様々な創意工夫を行いながら利活用を積極的に進めていただくようお願いする。

最後に、私は、総合戦略の期間であるこれからの4年間で市の命運を決することになると考えている。教育は今後の相生市のまちづくりの人材を育成する極めて重要な分野であると考えており、これまでの武本委員長をはじめ、各委員の教育行政に対す

る取り組みに、衷心よりお礼申し上げるとともに、今後ともよろしくお願い申し上げ、私の意見とする。

参事（生涯学習担当）

文化会館は音楽の練習が出来る設備のある部屋を2箇所設けている。若者が中心となって、そこで練習や発表ができる場として、日本各地に羽ばたいていくような登竜門になってもらえるよう使い易いということを念頭に置きながら周知も行っていきたいと思っている。

武本委員長

文化会館の運営について企画運営委員会という組織があるが、委員会の意見は大事だと思うが、その意見だけで文化会館が動いていくことはリスクだと思う。様々な機会を設けて、市民の声を汲み取れる仕組みづくりをしないと一部の人の偏った考え方で動かされるということは困るし、委員の意見を無視するわけにもいかないので、その調整が館長の立場として非常に大事なことだと思う。出来るだけ広範囲の市民の声を聞けるような仕組みづくりを考えていただけたらと思う。

谷口市長

友の会がどれくらいになるか分からないが、アンケート調査などの方法で、いろんな声を吸い上げていったら良いと思う。

参事（生涯学習担当）

自主事業というようなことにも新たに取り組んでいく。色々なジャンルのこともやっていくので、様々な形で情報を聴取していきながら、全体的な運営の経費も勘案し、メリハリをつけながら市民の皆様に参加してもらえるようなものの組み立てをしていきたいと考えている。

小西委員

インターネットで情報を流したり、その情報を基に企画をしたりということが大きな鍵になってくるのではと思う。

浅井教育長

ワンピース・イングリッシュは、今後の相生市の英語教育の根幹となるもので、専門のアドバイザーに依頼しやっていきたいと考えている。2020年には英語の教育は大きく変わり、その時には間違いなく先進的な部類で入っていけるようにしたいと考えている。費用はかかるが、これから長くこの方にアドバイスを受けながらきっちりとした英語教育を幼児期からやっていきたいと考えている。

小西委員

管理職全員に英語を勉強させる。我々中小企業でも縁遠かった英語が出張に行つて

当たり前前に交渉していかなければならないような時代になってきている。

栗原委員

英語が必要になる時代がそこに来ているので、若い子ほどインターネットでと言われたが、インターネットでもカタカナ英語がどんどん入ってきている。間違ったカタカナ英語を英語だと思って使ったり、正しい英語を覚えてないと危険も潜んでいる。

英語だけでなく、他の知識も増やしてもらわないといけないと思う。

子どもたちはやるが、それを見ている親世代からおじいちゃん、おばあちゃん世代の人たちにも発信してそういった人たちにも関心をもっていただければと思う。親の捉え方も自分たちが点数をとるためにしてきた勉強じゃなくなってきたという感覚を持ってもらいたいと思う。

教育次長（管）

今回いただいた意見を踏まえ、事務局として関係部課とも協議を検討させていただき、更なる取り組みを進めさせていただきたいと考えている。

武本委員長 閉会の挨拶

第2回相生市総合教育会議を終了